

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔 ②

情熱あふれるフラメンコの踊りに出会い、1999年に愛好者4人と「フラメンコ・ロッサス」を立ち上げ、2018年に20周年記念公演を成功させた。スンを受け、フラメンコへの愛情を膨らませていく。ネットを持ち、情熱の靴音を高らかに、小学生から70歳代の人たちとともに舞台に立つ。

「私は代表ですが、お弁当をみんなに手渡しする事務局的な仕事に似合っています」と謙遜する。帯広活動は、夫の転勤先の弟子に住んでいた時、フラメンコの第一人者、草野櫻子さん（詩人・草野心平さんの孫娘）の教室が定期的に分かれています。フラメンコの普及にも熱心で、フリルがたっぷりのカラフルな衣装を身に付け、手には軽やかなリズムを打

団体名の「ロッサス」はスペイン語で「薔薇たち」という意味。コロナ禍の嵐が過ぎ去り、情熱的な舞台が間近で楽しめる日が戻ってくるのが待ち遠しい。



カラフルな衣装とバラの花とともに笑顔を見せる遠藤さん

舞踊

遠藤 あゆみさん
＝釧路市

フラメンコ普及に貢献